

2026年度 第1四半期報告の概要

2026年8月7日

明治安田生命保険相互会社



I.	2026年度 第1四半期報告のポイント	P. 2
II.	明治安田グループの業績	P. 3
III.	明治安田単体の業績	P. 6
IV.	スタンコープ社・バナーライフ社の業績【参考】	P. 1 1
V.	業績見通し	P. 1 2

グループ保険料
(除く再保険収入)
1兆1,066億円

前年同期差 : 1,534億円減 (△12.2%)

- ・ 単体における2025年4月に引受再開した確定給付企業年金の受管の反動減を主因として、前年同期比で減収

グループ業務利益 (注)
1,483億円

前年同期差 : 374億円増 (+33.7%)

- ・ 単体における「利息及び配当金等収入」の増加、海外保険事業におけるバナーライフ社の買収やスタンコープ社によるオールステート社の任意加入型団体保険事業の買収を主因に、前年同期比で増益

グループESR
209%

前年度末差 : 0.3ポイント増

- ・ 健全性を表す指標は、引き続き高い水準を維持

業績見通し

- ・ グループ保険料 (除く再保険収入) は「増収」、グループ業務利益は「横ばい」の見通し (2025年度決算報告時から変更なし)

(注) 「グループ業務利益」は、明治安田単体の基礎利益から標準責任準備金の積み増し・戻し入れの影響を除いた単体の業務利益に、連結される子会社および子法人等ならびに持分法適用の関連法人等のキャピタル損益等を控除した税引前利益のうち、明治安田の持分相当額を合算し、明治安田グループ内の内部取引の一部を相殺したもの

1. グループ保険料

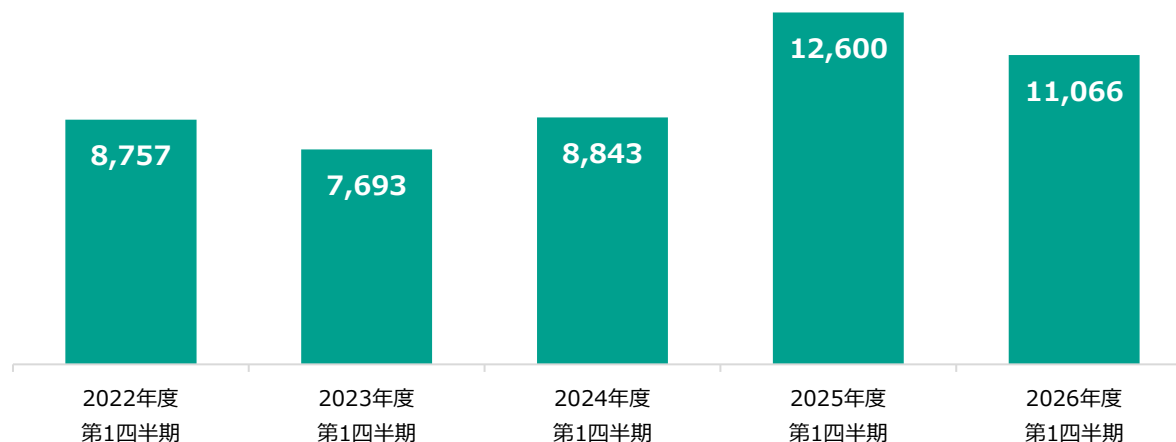
■ グループ保険料の状況

(単位：億円)

	2025年度 第1四半期	2026年度 第1四半期	前年同期比
グループ保険料（除く再保険収入） ^(注1)	12,600	11,066	△12.2%
海外保険事業等 ^(注2)	1,563	3,128	+100.1%
うちスタンコープ社	1,478	2,067	+39.8%
うちバナーライフ社	—	908	—
グループ保険料 ^(注3)	12,614	11,609	△8.0%

■ グループ保険料（除く再保険収入）の推移

(単位：億円)



- グループ保険料（除く再保険収入）は、明治安田単体における2025年4月の確定給付企業年金保険の引受再開に伴う受管の反動減を主因に、前年同期から12.2%の減収
- 海外保険事業等では、バナーライフ社の買収やスタンコープ社によるオールステート社の任意加入型団体保険事業の買収を主因に、前年同期から100.1%の増収

(注1) 「グループ保険料(除く再保険収入)」は、「グループ保険料」から再保険収入（2025年度は明治安田単体の再保険収入）を除いたもの

(注2) 海外保険事業等は、明治安田単体以外の合算。なお、海外の子会社等は決算日が明治安田単体と3ヵ月ずれるため、第1四半期グループ業績への反映期間は1月から3月までの3ヵ月

(注3) 「グループ保険料」は、連結損益計算書上の保険料等収入。海外保険会社の保険料等収入の算定方法について、2025年度までは保険料から再保険料を差し引いていたが、2026年度から再保険料を差し引かず、再保険収入を加算する方法に改正

2. グループ業務利益

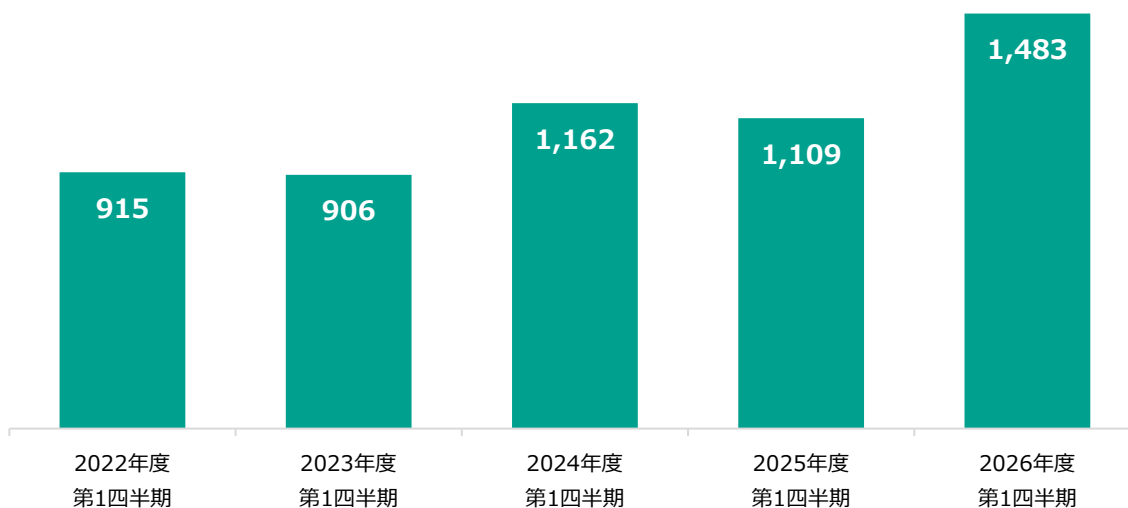
■ グループ業務利益の状況

(単位：億円)

	2025年度 第1四半期	2026年度 第1四半期	前年同期比
グループ業務利益 ^(注1)	1,109	1,483	+33.7%
うち海外保険事業等 ^(注2)	279	399	+42.6%
うちスタンコープ社	210	298	+42.1%
うちバナーライフ社	—	51	—

■ グループ業務利益の推移

(単位：億円)



- グループ業務利益は、明治安田単体における「利息及び配当金等収入」の増加を主因に、前年同期から33.7%の増益
- 海外保険事業等では、バナーライフ社の買収やスタンコープ社によるオールステート社の任意加入型団体保険事業の買収を主因に、前年同期から42.6%の増益

(注1) 「グループ業務利益」は、明治安田単体の基礎利益から標準責任準備金の積み増し・戻し入れの影響を除いた単体の業務利益に、連結される子会社および子法人等ならびに持分法適用の関連法人等のキャピタル損益等を控除した税引前利益のうち、明治安田の持分相当額を合算し、明治安田グループ内の内部取引の一部を相殺したもの

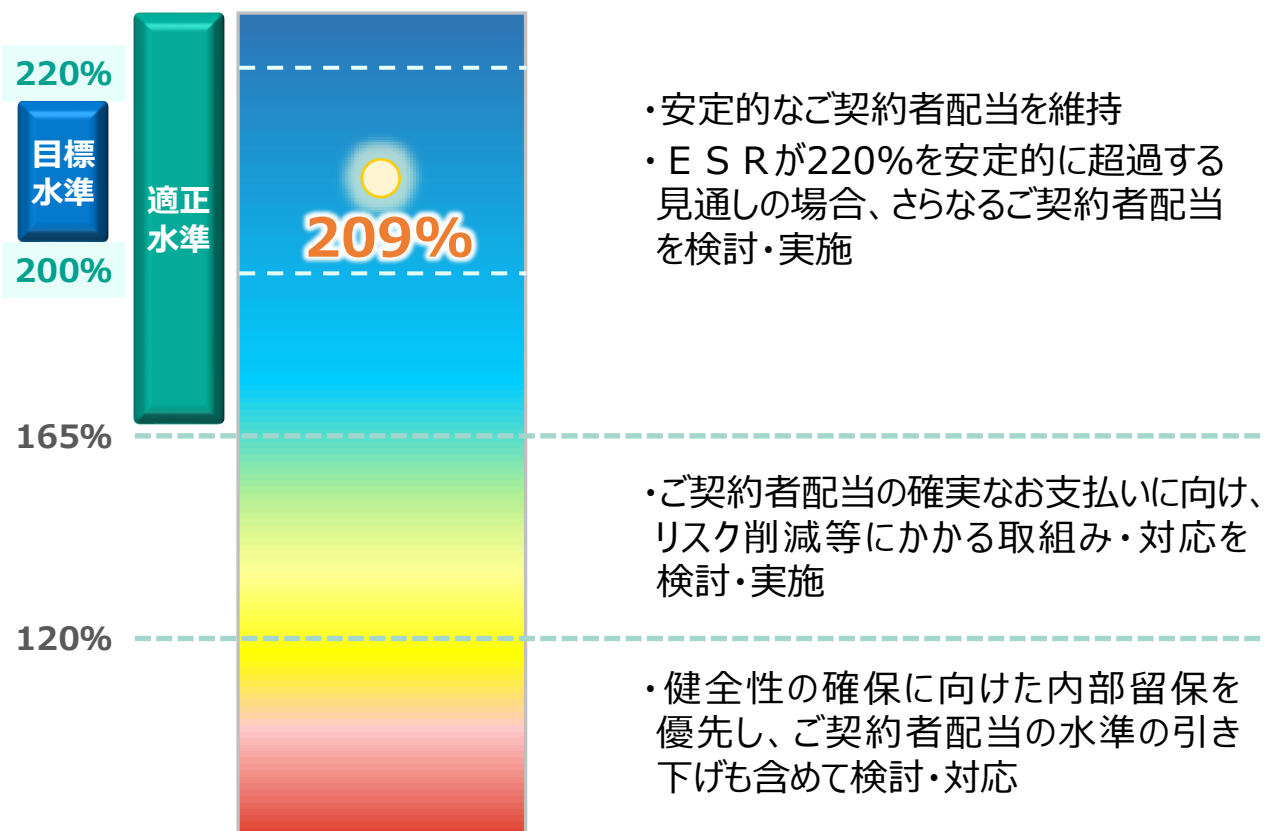
(注2) 海外保険事業等は、明治安田単体以外の合算。なお、海外の子会社等は決算日が明治安田単体と3ヵ月ずれるため、第1四半期グループ業績への反映期間は1月から3月までの3ヵ月間

3. 健全性指標

■ グループ E S R について

当社は標準モデル E S R（注1）と内部モデル E S R（注2）のうち、低い方をグループ E S R（注3）とし、健全性を確保したうえで、ご契約者配当等の経営判断を実施

グループ E S R の水準 < E S R 水準に応じた契約者配当の考え方 >



○ グループ E S R は209%と、引き続き高い水準を維持

○ 今後も健全性の確保を前提に、企業価値の持続的向上と安定的なご契約者配当の実現に取り組み

（注1）金融庁が保険会社の監督に活用する健全性指標（法令上の名称は「ソルベンシー・マージン比率」）であり、業界共通の基準に基づいた標準的なモデルによる E S R

（注2）当社の事業実態を反映した内部モデルによる E S R

標準モデル E S R	内部モデル E S R
214%	209%

（注3）四半期は簡便的に計測

1. 保険料等収入

■ 保険料等収入の状況

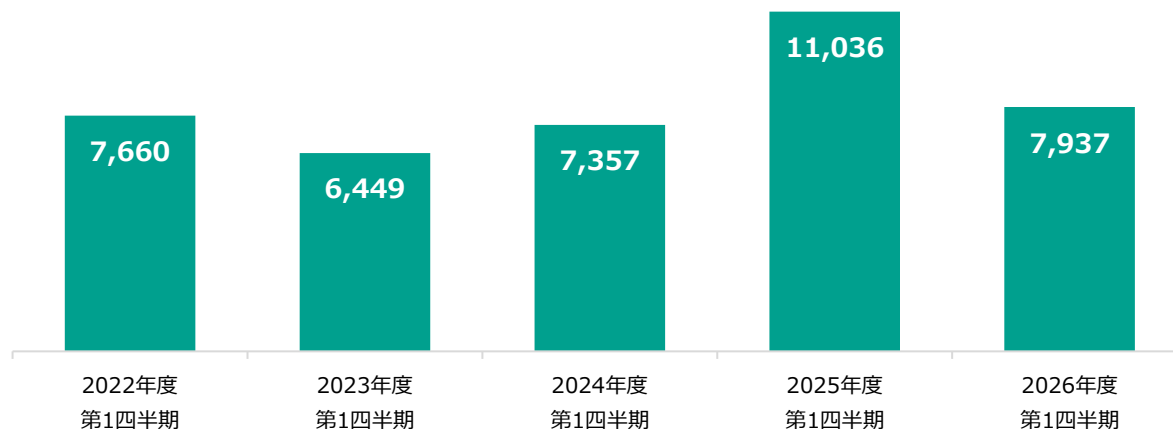
(単位：億円)

	2025年度 第1四半期	2026年度 第1四半期	前年同期比
保険料収入	11,036	7,937	△ 28.1 %
うち個人保険・個人年金保険	5,927	5,421	△ 8.5 %
うち営業職員チャネル	5,080	4,666	△ 8.2 %
うち銀行窓販チャネル	749	657	△ 12.3 %
うち団体保険	757	763	+0.7%
うち団体年金保険	4,271	1,671	△ 60.9 %
保険料等収入 ^(注)	11,050	7,985	△ 27.7 %

- 保険料収入は、7,937億円と前年同期から28.1%の減収
- 2025年4月に引受再開した確定給付企業年金保険の受管の反動減が主因

■ 保険料収入の推移

(単位：億円)



(注) 「保険料等収入」は、単体損益計算書上の保険料等収入のことで、保険料収入に再保険収入を加えたもの

2. 新契約年換算保険料（個人保険・個人年金保険）

■ 新契約年換算保険料の状況（個人保険・個人年金保険）

（単位：億円）

	2025年度 第1四半期	2026年度 第1四半期	前年同期比
新契約年換算保険料	420	387	△7.8%
うち営業職員チャンネル	366	339	△7.3%
うち銀行窓販チャンネル	51	44	△12.3%
保障性商品新契約年換算保険料（注1）	80	68	△14.6%
貯蓄性商品新契約年換算保険料（注2）	314	298	△5.0%
第三分野新契約年換算保険料（注3）	95	78	△17.7%

○ 新契約年換算保険料は、387億円と前年同期から7.8%の減少

○ 円安の進行により外貨建保険の販売量が減少したことが主因

（注1）ベストスタイル等の総合保障型保険、医療・介護保険等の保障性商品を対象

（注2）終身保険、年金保険、養老保険等を対象

（注3）第三分野は、医療保障給付、生前給付保障給付、保険料払込免除給付等に該当する部分を計上

3. 保有契約年換算保険料（個人保険・個人年金保険）

■ 保有契約年換算保険料の状況（個人保険・個人年金保険）

（単位：億円）

	2025年度末	2026年度 第1四半期	前年度末比
保有契約年換算保険料	21,440	21,470	+0.1%
うち営業職員チャンネル	16,515	16,605	+0.5%
うち銀行窓販チャンネル	4,483	4,428	△1.2%
保障性商品保有契約年換算保険料（注1）	6,101	6,083	△0.3%
貯蓄性商品保有契約年換算保険料（注2）	14,380	14,453	+0.5%
第三分野保有契約年換算保険料（注3）	5,211	5,209	△0.0%

○ 保有契約年換算保険料は、
前年度末と同水準

- （注1）ベストスタイル等の総合保障型保険、医療・介護保険等の保障性商品を対象
（注2）終身保険、年金保険、養老保険等を対象
（注3）第三分野は、医療保障給付、生前給付保障給付、保険料払込免除給付等に該当する部分を計上

4. 業務利益

■ 業務利益の状況

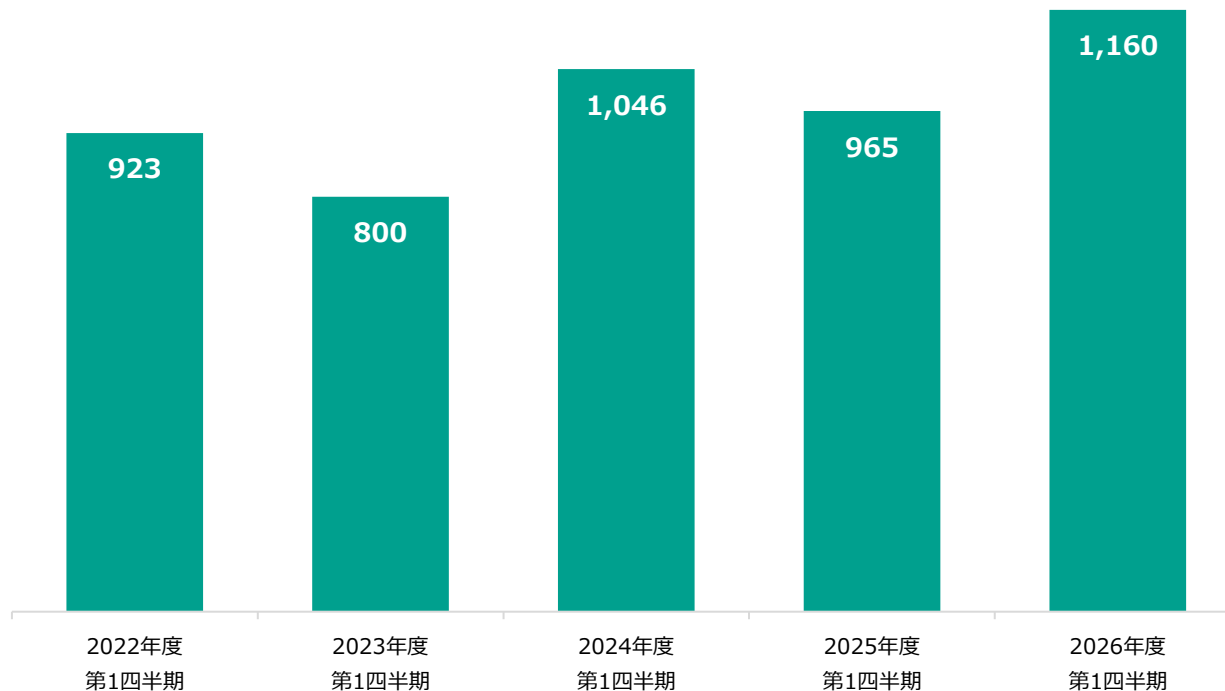
(単位：億円)

	2025年度 第1四半期	2026年度 第1四半期	前年同期比
業務利益	965	1,160	+20.2%

- 業務利益は1,160億円と、「利息及び配当金等収入」の増加等により、前年同期から20.2%の増益

■ 業務利益の推移

(単位：億円)



(注) 業務利益は明治安田単体の基礎利益から標準責任準備金積み増し・戻し入れの影響を除いたもの

5. 含み損益、国内株式含み損益ゼロ水準

■ 一般勘定資産全体の含み損益

(単位：億円)

	2025年度末	2026年度 第1四半期末	前年度末差
一般勘定資産全体の含み損益	56,034	66,943	+ 10,909
うち時価のある有価証券 (注1)	48,806	59,768	+ 10,961
うち公社債	△ 21,618	△ 22,786	△ 1,168
うち国内株式	61,417	69,954	+ 8,536
うち外国証券	7,094	9,682	+ 2,587
うち不動産	6,950	6,902	△ 48

- 一般勘定資産全体の含み損益は、6兆6,943億円と前年度末から1兆909億円増加
- 国内金利上昇により公社債の含み損が拡大した一方、株価上昇や円安により、国内株式・外国証券の含み益が増加し、全体の含み損益は増加

■ 国内株式含み損益ゼロ水準

仮に当社ポートフォリオがT O P I Xにフル連動するとした場合

	2025年度末	2026年度 第1四半期末
T O P I Xベース	660ポイント程度	680ポイント程度 (注2)

(注1) 有価証券には、金融商品取引法上の有価証券として取り扱うことが適当と認められるもの等を含む

(注2) 日経平均株価ベースでは12,000円程度

スタンコープ社・バナーライフ社の保険料収入、業務利益相当額

■スタンコープ社の保険料収入、業務利益相当額の状況（注1）

（単位：億円）

	2025年度 第1四半期	2026年度 第1四半期	前年同期比（*）
保険料収入（注2）	1,478	2,067	+39.8%
業務利益相当額（注3）	210	298	+42.1%

（*）現地通貨ベースでの前年同期比は保険料等収入+30.8%、業務利益相当額+32.9%

※2025年度第1四半期は2025年3月末の為替レート（1米ドル=149.52円）、
2026年度第1四半期は2026年3月末の為替レート（1米ドル=159.88円）で円換算

■バナーライフ社の保険料収入、業務利益相当額の状況（注1）

（単位：億円）

	2025年度 第1四半期	2026年度 第1四半期	前年同期比
保険料収入（注2）	—	908	—
業務利益相当額（注3）	—	51	—

※2026年度第1四半期は2026年3月末の為替レート（1米ドル=159.88円）で円換算

（注1）決算日が明治安田単体と3ヵ月ずれるため、第1四半期グループ業績への反映期間は1月から3月までの3ヵ月

（注2）「保険料収入」は、「保険料等収入」から再保険収入を除いたもの

（注3）業務利益相当額は、税引前利益からキャピタル損益や買収会計に伴う無形資産償却費用等を控除したもの

- スタンコープ社の保険料収入は、オールステート社の任意加入型団体保険事業の買収を主因に、前年同期から39.8%増収
- スタンコープ社の業務利益相当額は、オールステート社の任意加入型団体保険事業の買収に加え、給付率の下振れ等により、前年同期から42.1%増益
- バナーライフ社は、定期保険事業において新契約販売が好調に推移

※2026年2月に買収完了したバナーライフ社は、2026年第1四半期からグループ業績に反映

2026年度 業績見通し

※当社グループが現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づき算出しており、今後の環境等により変動の可能性があります。

■ グループ保険料の見通し

	2026年度 見通し	前年度比	2025年度 実績
グループ保険料 (除く再保険収入)	50,000億円程度	増加	44,854億円
うち海外保険事業	14,500億円程度	増加	7,547億円

○ 2026年度業績見通しは、グループ保険料「増収」、グループ業務利益「横ばい」と、2025年度決算報告時から変更なし

■ グループ業務利益の見通し

	2026年度 見通し	前年度比	2025年度 実績
グループ業務利益	7,600億円程度	横ばい	7,602億円
うち海外保険事業	1,300億円程度	減少 ^(注)	1,674億円

(注) 2025年度実績から、特殊要因である売却したオイロパ社・ワルタ社の業績と、スタンコープ社における責任準備金の戻し入れの影響を除けば「横ばい」